

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：種村 智香

研究分野	研究内容のキーワード
臨床看護	慢性創傷, 自己免疫性水疱症 (天疱瘡・類天疱瘡), Quality of Life, 緩和ケア
学位	最終学歴
修士 (看護学)	武庫川女子大学大学院看護学研究科修士課程修了、武庫川女子大学大学院看護学研究科博士後期課程在学中

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 紙面事例と実演、実際の患者の語りを用いた遠隔実習	2020年5月～2020年7月	新型コロナウイルス感染拡大の影響にて、病院での臨地実習が困難な状況となった。そのため、Google ClassroomおよびMeetを用いて遠隔での実習を行った。事例の模擬カルテを作成し、学生がカルテからの情報収集を想定して、パソコン画面から情報を収集を行う方法を実施した。また、実際に患者に関わる事ができないため、教員が患者役を行い、学生に対してコミュニケーションを図りニーズの表出等を行った。また、実際の患者の語りを聴くことも重要と考え、Depex Japanに依頼を行い、乳がんおよびクローン病患者の語りを学修資料として視聴した。本来の実習目標を達成するため、可能な範囲での実践を行い、学生のアンケート結果からも高い満足度が得られた。
2. 成人看護学実習（慢性期）の実習記録にそった看護展開の指導	2019年9月30日～現在	武庫川女子大学看護学部成人看護学（慢性期）の助教として、学生が受け持ちをしていた患者2名において、自分自身も実習記録を用いて看護展開を実践した。実際に使用している実習記録を記載することで、学生が記録上で抱える困難感や、今後の実習記録の改善案などについても気づくことができた。記録にそって指導し、看護展開が理解・実践できるように、現在も指導を継続している段階である。
3. 成人看護学実習（慢性期）での臨床指導者との看護の方向性の確認	2019年9月30日～現在	武庫川女子大学看護学部成人看護学（慢性期）の助教として、学生が看護計画を立案する際に、実習1週目末に臨床指導者にも助言を得て、計画の方向性の確認を行った。実習2週目において、立案した看護計画について検討を行うが、その際に学生が立案した看護計画と、臨床現場での看護の方向性に大きなずれが生じにくくなっている。
4. 成人看護学実習（慢性期）でのベッドサイドケアの実践	2019年5月7日～現在	武庫川女子大学看護学部成人看護学（慢性期）の助教として、臨地実習に同行した。16年間の臨床経験を活かし、安全が確保できる範囲内で学生が担当している患者のケアに積極的に同行し、ベッドサイドでの情報収集、学生とともに看護ケアの実践に努めた。
5. 院内研修の講義担当	2016年4月～2019年3月	大阪市立大学医学部附属病院の看護部教育委員として、院内のプリセプター研修、コーチ研修の講義資料作成および講義担当を行った。スライドを用いた講義およびグループワーク、個人ワークを取り入れた。受講生からは、「よく理解できた、満足できる研修であった」等の反応が得られた。
6. 2年目看護師の指導	2016年4月～2019年3月	大阪市立大学医学部附属病院の看護主任として、所属病棟の卒後2年目看護師の指導担当を行った。看護技術の未経験項目の把握と調整、アセスメント能力および看護実践能力向上のために、2か月に1度面談を行い、その時期に応じた課題を提示し指導に関わった。また、経験の概念化シートを用いて、看護実践を理論化するワークを実践した。
7. 臨地実習全期間中の指導担当	2016年4月～2019年3月	大阪市立大学医学部看護学科臨地実習講師および大阪市立大学医学部附属病院看護主任として、基礎看護学の実習生10名、早期体験実習の実習生6名を担当した。臨地実習指導者として、白鳳短期大学基礎看護学実習Ⅱの実習生4名を担当した。実習期間中は、毎日指導に関わることができるよう常に日勤勤務を行った。毎日の学生カンファレンスに参加し、患者の現状や実習に対する反応を積極的に学生に伝えるようにした。また、学生が、臨床現場での学びを看護展開に生かし、座学とのつながりを考えられるように、実習記録の確認を行い、毎日指導コメントを伝えフィードバックを行った。学生からは、「演習や座学だけでは学ぶことができない有意義な学びができた、臨床をするために技術演習や座学をもっと頑張ろうと思った」等の反応が得られた。
8. ポスターを用いた臨地実習の受け入れ準備	2016年4月～2019年3月	大阪市立大学医学部看護学科臨地実習講師および大阪市立大学医学部附属病院看護主任として、実習分野、期間、人数、実習目的、実習スケジュール等を記載したオリ

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
9. 院内研修のインストラクター	2016年4月～2019年3月	<p>ジナルのポスターを作成し、病棟スタッフに対して周知活動を行った。また、学生が効果的に実習に取り組めるよう、病棟師長と熟考し患者選定を行い、事前に実習の日程や概要等を患者に説明し、体調不良時は断ることができると等の倫理的配慮にも努めた。大学との実習説明会には、病棟師長と共に必ず出席し、状況把握に努めた。病棟スタッフ、患者の実習に対する受け入れは良好であり、実習中のトラブル等はなかった。</p> <p>大阪市立大学医学部附属病院の看護部教育委員として、新人看護師研修（採血・静脈注射・12誘導心電図・救急看護）のインストラクターを務め、実技指導を行った。教科書だけでは学ぶことができない経験知から伝えられる技術（コツ）についても伝え、研修生からは「わかりやすかった、実践してみようと思った」等の反応が得られた。</p>
10. がん看護専門分野（指導者）講義研修 修了後の院内学習会開催	2014年8月	<p>国立がん研究センターにて開催された、がん放射線療法看護コース指導者講義研修修了後、院内の放射線治療に関連する病棟を対象として放射線治療の基礎知識、看護ケア（皮膚ケアと口腔ケア）に関する学習会をスライドを用いて行った。学習会終了後に学習会の内容が理解できたか、実践に役立つ内容であったかについてアンケート調査を行い、学習会終了3ヶ月後に再度、学習会の内容が実践に役立っているかどうかのアンケート調査を行い、その結果を国立がん研究センターに提出した。</p>
2 作成した教科書、教材		
1. 大阪市立大学医学部看護学科の実習指導教材「実習虎の巻」改訂	2018年3月	<p>2015年度の副主任実習グループが作成した、大阪市立大学医学部看護学科に対する実習指導教材「実習虎の巻」の改定を2017年度の副主任実習グループメンバーと共に行った。臨地実習担当者（副主任）のみならず他のスタッフも同様に実習指導が行えるように、1日ごとの実習指導案を明確にする等の修正を行った。「その日に指導すべきことが明確になった、わかりやすくなった」等の反応が得られた。</p>
2. 院内クリニカルラダー評価表	2018年3月	<p>大阪市立大学医学部附属病院の看護部教育委員として、自施設のクリニカルラダーに日本看護協会版クリニカルラダーを導入し改定を行った。</p> <p>本人担当部分：ラダーⅠ（改定版ラダーⅡ）</p>
3. Support Team Assessment Schedule 日本語版 (STAS-J) 導入のための院内学習会資料	2016年3月	<p>大阪市立大学医学部附属病院のがん看護リンクナースとして、2014年度より院内に導入された、がん患者の苦痛スクリーニングツールであるSTAS-Jを浸透させるために、他病棟のリンクナース他3名と協同して院内学習会資料を作成した。</p>
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. コーチ（プリセプター指導担当）の経験	2015年4月～2016年3月	<p>大阪市立大学医学部附属病院の看護師としてコーチを1年間務め、3名のプリセプターの指導を担当した。また、3名のプリセプティ（新人看護師）の症例研究発表の指導に携わった。</p>
2. プリセプター（新人指導担当）の経験	2005年4月～2007年3月、2008年4月～2009年3月	<p>大阪市立大学医学部附属病院の看護師としてプリセプターを3年間務め、3名の新人看護師の育成に携わった。新人看護師と共に学び直すことで、自身の成長に繋げることができた。</p>
3. 臨地実習指導者の経験	2003年4月～2019年3月	<p>大阪市立大学医学部附属病院の看護師として、2003年度より基礎看護学実習生、成人看護学（慢性期）実習生の日々の実習指導担当を行った。2016年度より大阪市立大学医学部看護学科の臨地実習講師として、基礎看護学の実習生10名、早期体験実習の実習生6名を担当した。臨地実習指導者として、白鳳短期大学基礎看護実習Ⅱの実習生4名を担当した。その他、四天王寺大学保健教育コース養護教諭の臨地実習、医学部早期体験実習、ナーシングインターンシップ、大阪府主催の1日看護師体験の受け入れを病棟スタッフと共に行った。</p>
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 3学会合同呼吸療法認定士	2007年1月	2011年12月まで
2. 看護師免許	2003年4月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 副主任、看護主任の経験	2016年4月～2019年3月	<p>大阪市立大学医学部附属病院の副主任、看護主任として、病棟管理業務に携わった。また、病棟のクリニカルバ</p>

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
2. がん看護リスクナーズの経験	2014年4月～2016年3月	ス委員とともに、皮膚悪性腫瘍（全身麻酔、局所麻酔）、水疱症、エキスパンダー挿入術、乳房再建術、蜂窩織炎、乾癬レミケード治療等、多数のクリニカルパスの作成、改定、承認に携わった。
3. 病棟内固定チームナーシングにおけるチームリーダー、サブリーダーの経験	2007年4月～2013年3月	大阪市立大学医学部附属病院勤務時、院内のがん看護分野の専門看護師および認定看護師が開催しているがん看護研修を全課程修了し、2年間がん看護リンクナーズとして、所属病棟におけるがん看護の指導的役割を担った。また、他部署のがん看護リンクナーズと協同し、がん患者の苦痛スクリーニングツールであるSTAS-Jが院内に浸透するよう努めた。
4. 内科、外科病棟での臨床経験	2003年4月～2019年3月	大阪市立大学医学部附属病院勤務時、所属病棟において、チームリーダー、サブリーダーを各3年間務め、チーム運営およびスタッフ指導に携わった。
2003年4月より、大阪市立大学医学部附属病院の常勤看護師として、呼吸器内科、老年神経内科、形成外科、小児形成外科、皮膚科、整形外科、女性診療科での臨床を経験した。		
4 その他		
1. 厚生労働省 慢性疼痛診療体制構築モデル事業 大阪大学 慢性疼痛診療研修会修了	2019年2月	厚生労働省の主催する慢性疼痛診療体制構築モデル事業、慢性疼痛診療研修を修了した。
2. 厚生労働省 認知症対応力向上研修修了	2018年10月19日	厚生労働省が定める病院勤務の医療従事者向け認知症対応能力向上研修を修了した。（2018年12月26日に大阪市長より修了証書交付）
3. がん看護専門分野（指導者）講義研修 がん放射線療法看護コース修了	2014年7月	国立がん研究センター、がん対策情報センター主催のがん放射線療法看護コースを3日間受講した。
4. 大阪府緩和ケア研修修了	2014年2月	大阪市立大学医学部附属病院にて開催された大阪府緩和ケア研修を2日間受講した。
5. エンド・オブ・ライフケア研修修了	2013年12月	日本看護協会主催の第1回エンド・オブ・ライフケア研修を受講した。
6. がん看護3研修修了	2012年8月	日本看護協会主催のがん看護3研修を受講した。
7. 日本緩和医療学会緩和入門セミナー修了	2012年6月	日本緩和医療学会主催の緩和入門セミナーを受講した。
8. がんプロフェッショナル養成セミナー修了	2012年12月	有馬で開催されたがんプロフェッショナル養成セミナーを2日間受講した。
9. 呼吸療法認定士講習修了	2006年8月	3学会（日本胸部外科学会、日本呼吸器学会、日本麻酔科学会）主催の第11回呼吸療法認定士講習を2日間受講した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 慢性創傷患者の疼痛評価－創傷処置時の疼痛に焦点を当てて－	単	2017年3月	武庫川女子大学大学院看護学研究科	慢性創傷患者15名を対象として、①日本語版Short-Form McGill Pain Questionnaire-2を用いた疼痛の質的評価、②創傷処置時の疼痛の強さの評価、③創傷処置時の疼痛要因を検討した。結果、慢性創傷患者は、平常時より持続的な性質が強い複雑な疼痛を抱えており、このような慢性創傷患者の80%は創傷処置により疼痛が増強していた。処置前の適切なタイミングで薬理的介入を行い、「傷を擦る、悪い組織をとる」「ガーゼの固着」「創部の洗浄」「創周囲のテープの剥離」の要因に対して、病態や個別性に応じた処置方法を検討することで、創傷処置時の疼痛緩和に繋がると考えられた。
3 学術論文				
1. 下肢慢性創傷患者における疼痛評価－日本語版Short-Form McGill Pain Questionnaire-2およびVisual Analogue Scaleを用いて－(査読付)	共	2019年12月	日本フットケア学会雑誌 17(4) P.186-191	慢性創傷の疼痛は、急性創傷の疼痛とは異なり、侵害受容性疼痛のみならず、神経障害性疼痛、非器質的疼痛にも起因した痛覚過敏やアロディニアを生じる複雑な疼痛であると報告されている。そのため、従来より多用されているVisual Analogue Scale (VAS)に加え、日本語版Short-Form McGill Pain Questionnaire-2 (SF-MPQ-2)を用いて、疼痛の性質や特徴を評価することを目的に、A大学病院の形成外科、皮膚科の混合病棟に入院中の下肢に慢性創傷をもつ患者7名を対象として調査を行った。VASを用いた評価では、1名のみが中等度以上の強さの痛みを認めた。一方、SF-MPQ-2を用いた評価では、対象者の半数以上で持続的・間欠的・神経障害性・感情的表現の4領域すべての性質の痛みを認め、約40%は神経障害性疼痛の可能性があった。また、70%以上で痛覚過敏、アロディニアに関連した痛み表現を認め、SF-MPQ-2総合得点が高い者は、神経障害性疼痛の可能性があり、感

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
2. 慢性創傷患者の創傷処置時の疼痛緩和を目指して一痛みを我慢している患者に焦点を当ててー (査読付)	共	2018年4月	第48回日本看護学会論文集 慢性期看護 P.27-30	情的表現の性質と痛覚過敏、アロディニアに関連した痛み表現が強く認められた。 本人担当部分：全て担当。 共同著者：種村智香、布谷麻耶、宮本撰、川端京子 処置時に痛みを我慢している慢性創傷患者11名を対象として、創傷処置の内容や疼痛の程度、疼痛への影響要因や鎮痛剤の使用状況について調査した。結果、疼痛要因は「傷を擦る、悪い組織をとる」「ガーゼの固着」「創部の洗浄」「創周囲のテープの剥離」と回答した割合が高く、これらは鎮痛剤使用者においても同様の結果であった。創傷処置時の疼痛状況としては、処置直後では54.5%で中等度以上のVASを認めたが、処置前の鎮痛剤使用率は36.4%と低かった。よって、これらの疼痛要因を再認識し、慢性創傷の疼痛に特徴的な痛覚過敏やアロディニアに配慮して処置の介入を行うこと、痛みの原因を明らかにした上で処置前の適切なタイミングで薬理的介入を行うことで、創傷処置時の疼痛緩和に繋がると考えられた。 本人担当部分：全て担当。 共同著者：種村智香、川端京子、布谷麻耶、宮本撰
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 肺癌患者のCINVの発現状況と食事摂取状況について一後ろ向き観察研究法を用いてー	共	2019年10月	第57回日本癌治療学会学術集会 (於福岡国際会議場・福岡サンパレス・マリンメッセ福岡)	シスプラチン (以下DDP) またはカルボプラチン (以下CBDCA) 併用化学療法を受ける肺癌患者に起因する悪心・嘔吐 (以下CINV) の発現状況と食事摂取状況を後方視的観察法にて調査した。結果、両群遅発期CINVあり群に比べて、遅発期CINVなし群は、常食以外の病院食を早期から選択し、摂取しようとしていた。CINVだけではなく、継続的に食事摂取状況も観察が必要であることが示唆された。 共同発表者：川端京子、樽井亜紀子、布谷麻耶、南裕美、種村智香、光岡茂樹
2. 皮膚悪性腫瘍患者における早期からの緩和ケア一患者アンケートを用いたアドバンスケアプランニングの実際一	共	2018年6月	第23回日本緩和医療学会学術大会 (於神戸ポートピアホテル)	皮膚悪性腫瘍患者の治療において、従来の抗がん剤治療に比べて比較的治療による副作用が少ない免疫チェックポイント阻害薬が用いられることが多く、全身状態が悪化した状態でも治療の継続が可能のため、看取りの看護に遅れが生じている現状があった。そこで、アドバンスケアプランニングの導入が必要であると考え、患者アンケートを用いて、患者の希望にそった看取りの看護を2名の患者に実践した。結果、患者アンケートを用いることは、医療者が普段質問しづらい内容を意図的に情報収集しやすく、患者の不安や人柄、大切にしたいこと等、思いを知るツールとして有用であった。これらの結果をもとに、その人らしさを尊重した退院支援に繋げることができた。 本人担当部分：データ収集以外の研究の全過程を担当。 共同発表者：石黒圭、種村智香、宮本撰
3. 慢性創傷患者における創傷処置時の疼痛緩和を目指して一痛みを我慢している患者に焦点を当ててー	共	2017年9月	第48回日本看護協会一慢性期看護一学術集会 (於神戸ポートピアホテル)	慢性創傷患者の創傷処置時の痛みを緩和するための方法を見出すために、創傷処置時の疼痛要因、疼痛状況、処置内容、鎮痛剤の使用状況を調査した。結果、対象者73.3%が処置時に痛みを我慢していたが、処置前の鎮痛剤使用率は36.4%と低い現状が明らかとなった。疼痛要因では、「傷を擦る、悪い組織をとる」「ガーゼの固着」「創部の洗浄」「創周囲のテープの剥離」が挙げられた。これらの疼痛要因に配慮し、処置前の適切なタイミングで薬理的介入を行うことが処置時の疼痛緩和に繋がると考えられた。 本人担当部分：研究の全過程を担当。 共同発表者：種村智香、宮本撰、布谷麻耶、川端京子
4. 慢性創傷患者における疼痛の質的評価一日本語版Short-Form McGill Pain Questionnaire-2を用いて一	共	2017年3月	第15回日本フットケア学会年次学術集会 (於岡山コンベンションセンター・ANAクラウンプラザホテル岡山・岡山県医師会館)	慢性創傷患者15名を対象に、日本語版Short-Form McGill Pain Questionnaire-2 (SF-MPQ-2) を用いて疼痛の質的評価を行った。結果、本研究の慢性創傷患者は、平常時より持続的な痛みの性質が強く、痛みの強い対象者では、痛覚過敏やアロディニアの徴候が示唆された。 本人担当部分：研究の全過程を担当。 共同発表者：種村智香、宮本撰、布谷麻耶、川端京子
5. 1泊2日乾癬レミケード治療パス導入における患者満足度の変化	共	2017年12月	第18回日本クリニカルパス学会学術集会 (於	平成29年2月より2泊3日の乾癬レミケード治療パスをDPCⅡ期以内の1泊2日に変更した。これにより、患者

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
6. STAS-Jを導入したことによる看護師の意識調査	共	2016年6月	大阪国際会議場) 第21回日本緩和ケア医療学会学術大会（於国立京都国際会館・グランドプリンスホテル京都）	に負担が生じているのではないかと考え、1泊2日と2泊3日の両方の治療スケジュールを経験した患者9名のうち同意を得た6名を対象にアンケート調査を実施した。結果、半数の患者が治療開始までの待ち時間に不満足、やや不満足と回答し、治療や症状に関して医師と話す時間が減ったと回答した。よって、入院から治療開始までのスケジュールがスムーズに行えるための調整と、医師と話す時間を意識的に確保していくことで患者満足度の向上へと繋げることができると考えられた。 本人担当部分：研究の全過程を担当。 共同発表者：田中真帆、中川悠海、種村智香、阿曾桂子、濱野由季代、三浦あずさ、宮本撰 4病棟87名の看護師を対象に、STAS-J導入による利点や問題点に関するアンケート調査を行った（回収率87.4%）。結果、STAS-Jを導入することで、患者の全体像の把握や問題点の明確化に役立っていたが、看護記録や看護展開に繋がっていない等の問題点が挙げられた。そこで、看護記録の方法やSTAS-J再評価のタイミング等を明示した「STAS-J導入のフロー図」作成等、院内でのSTAS-J定着を目指した活動を行った。 本人担当部分：研究の全過程を担当。 共同発表者：樽井壺紀子、林恵津子、大窪恵子、種村智香、鶴田理恵
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
1. 日本学術振興会科学研究費（若手研究）		2020年4月1日～		患者の視点を基盤とした天疱瘡・類天疱瘡患者における日常生活支援モデルの構築

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2020年4月1日～現在	武庫川女子大学まちの保健室プロジェクトメンバー 渉外・広報担当
2. 2019年9月23日	武庫川女子大学看護フェスタ：まちの保健室（健康相談）・あそびのひろば担当
3. 2019年9月～現在	日本フットケア・足病医学会会員
4. 2019年8月7日	武庫川女子大学まちの保健室ららぽーと甲子園（健康相談）
5. 2019年12月～現在	天疱瘡・類天疱瘡友の会会員
6. 2019年10月13日	関西地区第一回「天疱瘡・類天疱瘡友の会」ボランティアスタッフ
7. 2016年10月～2019年12月	日本フットケア学会